

# 白田川水系の特徴

## 治水

- ・ 白田川は、全区間にわたって急勾配で流下する2級河川である。支川の川久保川の合流付近から下流では、集落が形成され、沿川には家屋が連担している箇所も見られる。
- ・ 県が管理する区間の大部分は砂防指定地で、これまで砂防事業により流路工や床固工が整備され、支溪流には砂防堰堤が設置されてきた。現況河道は、年超過確率1/30程度の降雨に対応した流下能力を概ね有しており、令和元年台風第15号に伴う出水では、護岸等の施設災害が発生したが、近年、流域内の浸水被害は報告されていない。
- ・ 洪水時の流水による河川管理施設の損壊や土砂流出による河道の閉塞等が懸念されるため、特に家屋が連担し、伊豆東海岸の主要な交通が渡河する下流部では、適切な施設機能の維持や河道断面の確保が必要である。
- ・ 施設能力以上の洪水が発生し氾濫した場合でも、できる限り被害を軽減するため、「自らの命は自ら守る。自らの地域はみんなで守る」とする東伊豆町の防災対策と連携し、ハードとソフトが一体となった減災対策に取り組むことが重要である。
- ・ 白田川の津波対策は、静岡県第4次地震被害想定における施設計画上の津波高さ(L1)では、河川への津波遡上による被害は想定されていない。最大クラスの津波(L2)には、東伊豆町の津波防災地域づくり等と連携した対応を図っていく必要がある。

## 利用

- ・ 流況が豊かな白田川は、東伊豆町の上水道の水源として利用され、町内の7割以上の地区に供給されており、住民生活や観光・経済活動に欠かせない。
- ・ 漁業権が設定され、上流ではアマゴ、下流ではアユ、ニジマス、ウナギの放流が行われており、溪流釣りやマス釣り大会には、県内外からの来訪者が見られる。
- ・ 白田川親水公園や親水護岸が整備されるなど、地域住民が、河川を財産と捉えて、川の様々な姿に関心を寄せることが求められる。

## 環境

- ・ 河口から下流部では、海と川を回遊する絶滅危惧種（環境省：絶滅危惧Ⅱ類）のカマキリ（アユカケ）が確認されており、河川の上下流の連続性の確保に配慮する必要がある。
- ・ 上流部では、絶滅危惧種のタゴガエルの生息やズソウカンアオイの自生が確認されており、河道内地形の凹凸の多様性や広葉樹の河畔林が育む水辺環境に注目する必要がある。